

寄贈図書リスト

国立天文台岡山天体物理観測所, 岡山観測所 40 周年記念誌編集委員会, A4 判, 228 p, 国立天文台岡山天体物理観測所

巨大望遠鏡時代, 野本陽代, A5 判, 206 p, 1,800 円, 岩波書店

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jimu@geppou.asj.or.jp 宛, なお, 原稿も必ず 0422-31-5487迄 Fax でお送り下さい。

6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上
7. (1) 履歴書, (2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要), (3) 研究論文リストおよび主要論文別刷, (4) 今後の研究の抱負, (5) 本人について意見を述べられる人 2 名の氏名と連絡先
8. 2001 年 12 月 15 日必着
9. 〒 920-1192 金沢市角間町
金沢大学理学部物理学学科長 鈴木恒雄
Tel: 076-264-5680
E-mail: suzuki@hep.s.kanazawa-u.ac.jp
10. 封筒に「助手応募書類在中」と朱記し, 簡易書留で送付のこと。

人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

金沢大学理学部物理学科助手

1. 助手 1 名
2. 理学部物理学科複雑系物理学講座
宇宙物理学研究室
3. 当物理学科では, X 線, ガンマ線天文学を専門とする宇宙物理学 (実験) 研究室が新設されます。現在宇宙科学研究所の村上敏夫氏が教授で赴任する予定です。これまでの研究分野は問いませんが, 教授と協力して宇宙物理研究室を立ち上げていく若手研究者を求めます。
5. (1) 2002 年 4 月 1 日
(2) なし

理化学研究所研究員

1. 研究員 1 名
2. (1) 宇宙放射線研究室
(2) 埼玉県和光市
3. 高エネルギー宇宙物理学実験
4. X 線・ γ 線衛星を用いた宇宙観測を進めつつ, 将来の宇宙観測実験を計画・遂行して頂く。とくに計画中の ASTRO-E2 衛星に搭載される HXD 装置の開発実験を主導できる方を希望する。
5. (1) 2002 年 4 月 1 日以降なるべく早い時期。
6. 原則として 35 歳以下の方で, 博士号をもつか, 2002 年 3 月末までに博士号を取得見込みの方。
7. (1) 履歴書 (写真貼付), (2) これまでの研究成果と今後の研究計画 (1500 字程度), (3) 論文リスト (レフェリー付と他を区別のこと), (4) 主要論文 2 篇の別刷 (コピー可) 各 2 部, (5) 理化学研究所理事長あての推薦書または意見書 1 通。
8. 2001 年 12 月 20 日 (木)
9. (1), (2) 〒 351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1
理化学研究所 宇宙放射線研究室 主任研究員
牧島一夫
Tel: 048-467-9333
E-mail: maxima@crab.riken.go.jp
10. 封筒に「研究員応募」と朱書し, 簡易書留で送付のこと。

国立天文台教官公募

光学赤外線天文学・観測システム研究系教授

1. 教授 1 名
2. (1) 光学赤外線天文学分野
(2) 東京都三鷹市
3. 光学赤外線天文学及び関連分野
光学赤外線天文学研究分野において、観測的研究あるいは開発的研究などにおいて指導的役割を果たす教授を広く求めます。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
6. 大学院博士課程修了、またはそれと同等以上の方
7. (1) 略歴書、(2) 研究歴（これまでの研究内容の概要を含む）、(3) 研究論文リスト（査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと）及び主要論文別刷、(4) 研究計画書、(5) 本人について意見を述べられる人 2 名の氏名と連絡先、(6) 他薦の場合には推薦書の他に、前記事項(1)～(4)の概要がわかる書類
8. 締切：平成 14 年 1 月 15 日(火) 必着
9. (1) 〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 海部宣男
(2) 〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
光学赤外線天文学・観測システム研究系研究
主幹 家 正則
Tel : 0422-34-3520
E-mail: iye@optik.mtk.nao.ac.jp
10. 封筒の表に「光学赤外分野教授人事応募書類在中」と朱記し、郵送の場合は簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議委員会において行ない、外国籍の人の場合は法令に基づき任期を定める場合があります。

地球回転研究系助教授

1. 助教授 1 名
2. (1) 地球回転研究系
(2) 岩手県水沢市または東京都三鷹市
3. 電波位置天文・測地学分野
4. VERA 計画では、水沢、入来、小笠原局が完成し、4 局目の石垣島局が建設中です。VERA のシステムを立ち上げて早期に初期成果を上げつつ、VERA による新しい電波位置天文や測地学等の分野を切り開く、意欲的な助教授を広く求めます。
5. 決定後なるべく早い時期

6. 大学院修士課程終了、又はそれと同等以上。
7. (1) 略歴書、(2) 研究歴（これまでの研究内容の概要を含む）、(3) 研究論文リスト（査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと）及び主要論文別刷、(4) 研究計画書、(5) 本人について意見を述べられる人 2 名の氏名と連絡先、(6) 他薦の場合には推薦書の他に、前記事項(1)～(4)の概要がわかる書類
8. 締切：平成 14 年 1 月 15 日(火) 必着
9. (1) 〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 海部宣男
(2) 〒 023-0861 岩手県水沢市星が丘町 2-12
地球回転研究系主幹 河野宣之
Tel: 0197-22-7122
Fax: 0197-25-6619
E-mail: kawano@miz.nao.ac.jp
10. 封筒に「地球回転研究系助教授応募書類在中」と朱記し、郵送の場合は簡易書留でお送りください。選考は国立天文台運営協議委員会において行います。

電波天文学研究系助教授

1. 助教授 1 名
2. (1) 電波天文学研究系、(2) 東京都三鷹市
3. 宇宙電波分野
4. 電波研究系の宇宙電波分野では、45 m 電波望遠鏡やミリ波干渉計等を運用し観測研究、技術開発を進めつつ、次期計画としてアタカマ大型ミリ波サブミリ波干渉計 (ALMA) 計画を推進しています。ALMA 計画推進の中核のひとりとして計画の実現と新しい天文学の開拓をめざす助教授を求めます。
5. 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上
7. (1) 略歴書、(2) 研究歴（これまでの研究内容の概要を含む）、(3) 研究論文リスト（査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと）及び主要論文別刷、(4) 研究計画書、(5) 本人について意見を述べられる人 2 名の氏名と連絡先、(6) 他薦の場合には推薦書の他に、前記事項 (1)～(4)の概要がわかる書類
8. 締切：平成 14 年 1 月 15 日(火) 必着
9. (1) 〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 海部宣男
(2) 〒 384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山
電波天文学研究系主幹 中井直正
Tel: 0267-98-4392

E-mail: nakai@nro.nao.ac.jp

10. 封筒の表に「電波天文学助教授応募書類在中」と朱記し、郵送の場合は簡易書留でお送りください。選考は国立天文台運営協議委員会において行います。

天文情報公開センター助手

1. 助手1名
2. (1) 天文情報公開センター
(2) 東京都三鷹市
3. 研究分野を問わない
4. 天文情報公開センターにおいて、電子広報等による社会や天文関係者への情報提供、各種の協力活動等を通じて天文学の広報普及を積極的に行っています。これらの活動を積極的に実施するとともに、自らの研究も意欲的に推進する若手の研究者を求めます。
5. 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上
7. (1) 略歴書, (2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要を含む), (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すこと) 及び主要論文別刷, (4) 研究計画書 (情報公開についての計画と本人自身の研究計画の両方), (5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先, (6) 他薦の場合には推薦書の他に, 前記事項(1)~(4)の概要がわかる書類
8. 締切: 平成14年1月15日(火)必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 海部宣男
(2) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
天文情報公開センター長 福島登志夫
Tel: 0422-34-3613
e-mail: toshio@nao.ac.jp
10. 封筒の表に「天文情報公開センター助手応募書類在中」と朱記し、郵送の場合は簡易書留でお送りください。選考は国立天文台運営協議委員会において行います。

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果 (前所属)
3. 着任時期

鳥取県立三瓶自然館学芸員

1. 第94巻6号
2. 竹内幹蔵
3. 2001年10月1日

その他

第8回 IAU アジア・太平洋地区会議 (APRM2002) での学生院生アルバイト・ボランティアを募集します

APRM2002 会場で会議の運営を手伝っていただける学生院生の方約30名を募集します。仕事の中身は、大きく分けて、(1) ポスター会場の設営, (2) 受付, (3) 会議の進行手伝い, (4) 飲物などの用意、です。手伝っていただける学生院生には、2日間の実働で、会議登録料相当のアルバイト料を支払います。(登録料そのものは出してまいりますので、差引でゼロになります。) なお、アルバイトを志望する学生院生は必ず、早期登録(早割)をお願いします。

日程: 2002年7月1日午後より7月5日午後まで
申込先: aprm-loc@astro.isas.ac.jp

または hachisu@chianti.c.u-tokyo.ac.jp

※ 切: 随時受け付けていますが、2002年5月31日で締め切ります。

研究公募

第6回宇宙環境利用に関する地上研究公募のご案内

宇宙環境は、微小重力、高真空等の地上では得ることができない特徴を有しており、広範な分野にわたる研究や実験、観測等を行うことが期待されます。国際宇宙ステーション計画における我が国独自の実験棟「きぼう」等を利用した研究を目指す地上研究テーマを広く公募します。

●公募対象研究分野

微小重力科学、微小重力物理学、生物科学、バイオメデイカル、宇宙医学、宇宙科学、地球科学、宇宙利用技術開発の8分野

●スケジュール

募集開始：平成13年12月末（予定）

締切：平成14年2月28日（木）消印有効

研究開始：平成14年8月～

●問い合わせ先

財団法人日本宇宙フォーラム 公募研究推進部

Tel: 03-3459-1653

Fax: 03-5470-8426

URL: <http://www4.jsforum.or.jp/>

e-mail: koubo@jsforum.or.jp

※詳細は、平成13年12月以降、各研究機関に発送する募集要領、当財団のホームページでご案内いたします。

※資料の請求は氏名、所属、役職、住所、電子メールアドレス、希望部数を明記の上、電子メールまたはFAXでお願いいたします。

研究助成

山田科学振興財団研究援助候補推薦

山田科学振興財団より本会宛に、下記内容の2002年度研究援助候補の推薦依頼がありましたのでお知らせ致します。

(推薦要項抜粋)

1. 援助の対象：自然科学の基礎的研究（実用指向研究は対象外）

◎選考に当たり特に配慮される点

イ. 萌芽的研究

ロ. 大学に新研究室を創設して間もない場合

ハ. 学際性の豊かな研究

ニ. 国際協力研究

2. 援助の金額：1件当たり100～500万円の援助を10件。（援助金の使用期間は贈呈した年度及びその次の年度の計2年間とします。）

3. 推薦件数：1学会ごとに2件以内。

2001年度は、鶴剛氏に200万円、百瀬宗武氏に250万円の研究援助がされました。

★申請用紙をご入用の方は、学会事務所までお申し出下さい。申請書は、2002年3月1日までに下記学会宛に提出して下さい（学会推薦になっています）。

宛先：〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1

国立天文台内 社団法人日本天文学会

Tel: 0422-31-1359 Fax: 0422-31-5487

NPO法人「日本スペースガード協会」による研究助成金の公募について

日本スペースガード協会（略称JSGA）では「美星スペースガードセンター」において観測研究等を事業として行っています。当協会が行う事業のレベル向上を願い、研究助成事業を昨年から開始いたしました。今回（2002年度分）は、小惑星の軌道決定には2夜以上の精密な位置観測が必要であり、発見後のフォローアップ観測が特に重要であることから、「美星スペースガードセンター」もしくは他の観測者の発見に対するフォローアップ観測研究を行い、積極的に支援して下さる方に対して、「研究助成金」を支給することになりました。採用は2002年度1件とし、その金額は約40万円です。応募者の中から厳正な審査のうえ

決定させていただきます。ご希望の方は下記の応募要領によりお申し込み下さい。

日本スペースガード協会理事長 磯部琇三

<応募要項>

1. 提出書類
 - (A4横書きであれば特にフォーマットは指定しません)
 - (1) 具体的に行いたい観測・研究について、および過去の主たる観測・研究実績についての説明。(資料添付可)
 - (2) 観測所の環境
(天候の具合、観測可能時間帯、機材、電話、Fax、ネットワーク等の施設について。)
 - (3) 連絡先(氏名、住所、電話、FAX、e-mail)
2. 応募資格
個人、団体(高校、大学等の研究グループ等)を問いません。
3. 応募書類送付先
〒180-0023 東京都武蔵野市境南町 2-3-14
グローリア初穂武蔵境 609
日本スペースガード協会
4. 応募の締切り
2002年1月31日必着
5. 採用の発表
2002年3月下旬
(郵送にて応募者全員に結果をご連絡致します)
6. 審査
日本スペースガード協会内 研究助成委員会
7. その他
 - ・提出いただいた応募書類等は、返却いたしません。
 - ・研究助成金の受領者には、研究助成期間終了後1ヶ月以内に研究報告書を提出して頂きます。
 - ・本研究助成金を受けた研究の成果は、本協会活動の一部として、発表することがあります。
 - ・また、当人が学会、学術雑誌、単行本、その他の方法で発表する際は、「(NPO法人)日本スペースガード協会研究助成金」の助成による研究である旨を付記して下さい。
 - ・研究活動を中止するときは、中止の理由を説明する書類を添えて遅滞なくJSGAに連絡してください。この場合、交付済みの助成金は、原則とし返却するものとします。
8. 問い合わせ先
日本スペースガード協会 事務局
Tel / Fax: 0422-30-7650 (月・水・金)
e-mail: spacegd@cc.rim.or.jp

研究会・集案案内

第8回 IAU アジア・太平洋地区会議について

SOC 委員長: 池内 了

先にお知らせしましたように、標記の国際会議を、日本学術会議天文学研究連絡委員会 (IAU の日本側窓口)、日本天文学会、国立天文台の3者が共催して開催することになりました。この会議は、アジア・太平洋地域の天文学研究者が集い、(1)天文学の第一線の研究成果を交換すること、(2)地域内の研究交流と共同研究を促進すること、(3)若手研究者の研究を鼓舞し、次世代の研究者を育成すること、(4)地域内の国々の天文学研究の推進と天文学の普及のための方策を検討すること、を主要な目的としています。以下に、その詳細をお知らせするとともに、多くの方々の参加を期待します。

日程: 2002年7月2日(火)~5日(金)
会場: 一橋記念講堂 (東京都千代田区 学術総合センター)
参加費: 事前登録 (3月31日まで) 10,000円 (予定)
3月31日以後 14,000円 (予定)

プログラム案

PL はプレナリー・セッション、PS はパラレル・セッション、BS はビジネス・セッションの略です。

- 7月1日 (月)
 - 夕刻から登録開始
- 7月2日 (火)
 - 午前 オープニング・アドレス
PL1: Lage and New Facilities
 - 午後 PL1: (cont.)
- 7月3日 (水)
 - 午前 PL2: Extrasolar Planets
 - 午後 PS1: Star Formation and ISM
PS2: Cosmology, Galaxy Formation and Evolution
PS3: Compact Objects and High Energy Astrophysics
- 7月4日 (木)
 - 午前 PS3: Large Scale Survey
 - 午後 PS4: QSOs, AGNs and IGM
PS5: Solar and stellar Activities Binaries
BS1: Future Arrangement of APRM
 - 夕刻 Banquet

7月5日(金)

午前 PL4: Education and Popularization of Astronomy in Asia

クロージング・アドレス

午後 PS6: Gravitational Lensing

BS2: Regional Publication and Network

スケジュール

2001年12月1日

事前登録および論文(口頭発表, ポスター発表)受付開始

2002年3月31日

事前登録および口頭発表アブストラクト締切

2002年4月

SOCによる口頭発表の選択, プログラム決定

2002年5月31日

ポスター発表アブストラクト締切

問い合わせ先

国立天文台: 長谷川哲夫

Fax: 0422-34-3764

e-mail: aprm2002@astro.isas.ac.jp

詳細案内および参加申し込み

<http://www.astro.isas.ac.jp/conference/aprm2002>

サテライト・ミーティングについて

7月6日(土)は, サテライト・ミーティングのために会場を確保しています。希望される方は, (1) 会議名, (2) 主催者の名前と連絡先, (3) 予想される参加者数, (4) 会議時間, (5) 会議内容についての簡単な説明を池内 了: ikeuchi@a.phys.nagoya-u.ac.jp へ, お送り下さい。

会務案内

日本天文学会天文功労賞の制定に関して

日本天文学会では従来から新天体の発見に対する表彰制度を設けていましたが, 近年その範疇に入らないさまざまな活動が発展してきており, 天文学的にも大きな意味を持っていることから, それらの活動を表彰する新たな賞を制定すべく1999年度以来検討を重ねてきました。そして, 2001年7月7日に開催されました理事会で新賞の制定を評議員会に提案することが承認され, また2001年10月5日の評議員会で, 新賞の名前を「日本天文学会天文功労賞」とすること, および賞の内規が決定されました(後日掲載予定の評議員会議事録を参照)。以下に賞の内規文, および早速ですが, 受賞候補者推薦のお願いの案内を掲載いたします。

郷田直輝(庶務理事)

日本天文学会天文功労賞内規

(平成13年10月5日制定)

(賞の趣旨)

第1条 本会は, 継続的な観測, 予報外の天文現象の検出とその速やかな通報をはじめとする天体観測活動等が, 新天体の発見と並んで天文学の進歩および普及に大きく寄与しているとの認識に基づき, これらの活動を称賛し奨励するために日本天文学会天文功労賞を設ける。

(受賞資格)

第2条 本賞は, 天文学研究を主たる業務としない個人および団体をその対象とする。

(賞)

第3条 本賞の授与は, 長期に渡る功績に対しては原則として1年に1件以内とし, 短期的な功績に対しては件数の限度を設けない。

2. 受賞者(団体)には本賞として賞状を贈る。また, 副賞を併せて贈る場合がある。

3. 授賞式は本会の通常総会において行う。

(選考委員会)

第4条 選考委員会は, 天体発見賞選考委員会がこれを兼ねる。

(推薦)

第5条 日本天文学会会員は、受賞候補者(団体)を選考委員会に推薦することができる。

(選考)

第6条 選考委員会は推薦に基づいて受賞候補者(団体)を選考し、選考委員長が評議員会に報告する。必要な場合選考委員長は、選考のために委員会外の日本天文学会会員に意見を求めることができる。

(決定)

第7条 評議員会は、選考委員会の報告を尊重して本賞の受賞者(団体)を決定する。

日本天文学会天文功労賞候補者推薦のお願い

上記の報告にありますように、このたび日本天文学会では、「日本天文学会天文功労賞」を制定しました。この賞は、近年多岐にわたっている研究機関外での天文活動、たとえば長年の天体観測や、突発的な現象の検出や的確な通報などを、称賛し奨励するためのものです。賞の対象となる功績は、天体発見賞・発見功労賞の枠外となっている天文観測・研究活動全般です。なお、天文普及に関しましては、今回の賞の対象とはしないこととしております。対象者は、「天文研究を主たる業務としない」個人および団体で、日本天文学会の会員であるかどうかは問いません。選考は、天体発見賞選考委員会が行ない、評議員会で決定します。

天文学会の会員の方々からの候補者(団体)推薦を、広く募集します。

A4紙1枚程度で、候補者(団体)名、功績名(1行程度)、功績の説明を書いていただき、日本天文学会事務所(〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内/Fax 0422-31-5487/jimu@asj.or.jp)にお送りください。郵便・Fax・電子メールのいずれでも結構です。2002年度表彰分につきましては、2001年12月31日必着とさせていただきます。なにとぞ多数の御推薦をよろしく願いたします。

山岡 均(天体発見賞選考委員長)

2001年度日本天文学会林忠四郎賞受賞候補者および欧文報告論文賞受賞候補論文推薦のお願い

林忠四郎賞選考委員会

標記の2つの賞について、受賞候補者(論文)の推薦をお願いします。

締切は両賞共2001年12月21日(金)(必着)です。下に述べるそれぞれの要領にしたがって記入した推薦書を、

〒181-8588 三鷹市大沢2-21-1

国立天文台内 日本天文学会宛

に郵送してください。なお、封筒には「林忠四郎賞候補推薦書」または「欧文報告論文賞候補推薦書」と表記してください。とくに返送等のお申し出がない限り、推薦書類は選考後に破棄します。授賞式は、両賞共、本学会の通常総会(2002年3月29日、茨城大学)にて行う予定です。

2001年度林忠四郎賞(第6回)推薦要領

この賞は、林忠四郎博士が1995年11月に第11回京都賞を授与されたのを記念し、「後進の天文学研究を奨励するため」として同博士が日本天文学会に寄付された金額を基金にして設定されたものです。

分野等: 広い意味での天文学(天体物理学、宇宙物理学、他の関連テーマも含む)における独創的かつ分野に寄与するところの大きい研究業績に対して授与する。

授賞件数: 原則として各年に1件。

賞状等: 本賞として賞状、副賞として賞牌(メダル)および賞金(30万円)。

推薦書の形式: 表題は「2001年度林忠四郎賞候補者推薦書」としてください。前年度と同じ推薦をなさる場合も、あらためて推薦書を提出してください。A4サイズの用紙に、次の順序で横書きにしてください。

- 1) 候補者(被推薦者、連名授賞可)について: 氏名(ふりがな)、生年月日、大学卒業年、現職及び連絡先(電話、faxも)
- 2) 授賞対象とする研究の表題
- 3) 推薦者について: 氏名(ふりがな)、現職、連絡先(電話、faxも)、被推薦者との関係
- 4) 推薦理由の要旨(300字以内)

- 5) 推薦理由
- 6) 関連する論文のリスト
- 7) 添付資料として、推薦に関連して最も重要な論文のコピー（複数可）

○候補者名、現職、生年月日、○研究の表題、○推薦者の氏名と連絡先、○推薦理由、○関連論文リスト、○推薦に関連して最も重要な論文のコピー（複数可）

(3) 提出先:

〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1

国立天文台内 日本天文学会研究奨励賞選考委員会
選考委員会では、推薦された方の中から、研究奨励賞内規に基づき選考を行い、候補者を評議員会に推薦します。なお参考として、これまでの受賞者は <http://www.asj.or.jp/asj/> にリストされています。

2001 年度欧文報告論文賞（第 6 回）推薦要領

この賞は、良い論文が Publications of the Astronomical Society of Japan (PASJ) に投稿・出版されるのを奨励するために設定したものです。なお、本賞の選考委員会は、林忠四郎賞選考委員会が兼ねることになっています。

対象論文等：原則として過去 5 年以内に Publications of the Astronomical Society of Japan に出版された論文のうち、独創的で天文学分野に寄与の大きい、特に優れた論文の著者（共著の場合はすべての各共著者）に授与する。

授賞件数等：原則として 1 年に 2 件以内。
賞状を授与する。

推薦書の形式：表題は「2001 年度欧文報告論文賞候補推薦書」としてください。A4 サイズの用紙に、次の順序で横書きにしてください。

- 1) 候補論文について：論文題目、著者名、所属、出版された巻、ページ、発行年
- 2) 論文著者について：氏名（ふりがな）、連絡先（電話、fax も）
- 3～7) 林忠四郎賞推薦の場合と同じ

第 13 回日本天文学会研究奨励賞受賞候補者の推薦のお願い

本会は、優れた研究成果を挙げている若手天文学者に対して、日本天文学会研究奨励賞を授与しています。受賞資格は

- 1) 日本天文学会正会員で、最近 5 年間における天文学への寄与が顕著なる者
- 2) 当該年度初日（本年度は 2001 年 1 月 1 日）で 35 歳以下の者であって、原則として 1 年に 1 名を対象とし、賞状、賞牌（メダル）及び賞金を併せ授与しています。本年度の受賞候補者の推薦を以下の要領でお願いします。

- (1) 締切：2001 年 12 月 21 日(金)(必着)
- (2) 提出書類：

早川幸男基金受給者募集要項

早川幸男基金への次回の申請締切りは 2001 年 12 月 10 日です。なお、前々回（2001 年 6 月 10 日締切り分）までとは、申請方法が大幅に変更されましたのでご注意ください。以前の申請用紙を用いたものは認められません。詳細は、天文学会のホームページ <http://www.asj.or.jp/> の「早川幸男基金」の部分をご覧ください。若手天文学研究者の皆様の積極的な応募をお待ちしております。

早川幸男基金選考委員会

通常総会議事録

日 時：2001 年（平成 13 年）10 月 5 日(金)
16:30 ~ 18:15

場 所：イーグレひめじ多目的ホール（A 会場）

議 長：田原博人

議事に先立ち出席者の確認がなされた。事前投票総数は 303 名、総会出席者は 116 名である。なお、出席者のうちで事前投票をした 13 名は、事前投票の方を無効とした。従って、有効出席者総数は 406 名で、定足数（正会員総数 1416 名の 5 分の 1 以上：284 名以上）を満たしていることを確認した。次に署名人として中井直正氏、杉山直氏が選出された。

議事の経過及び結果

1. 2002 年度事業計画案（第 1 号議案）

2002 年度事業計画案について郷田庶務理事より説明があり、質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。

2. 2002 年度収支予算案（第 2 号議案）

2002 年度収支予算案について松原会計理事より説

明があり、質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。

3. 新評議員選出の件

2002年～2005年の任期となる新評議員選出の件について、郷田庶務理事より説明があり、質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。

4. 「会費に関する細則」変更案

「会費に関する細則」変更案について、立松会計理事より説明があり、質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。

なお、この件は学生に対する延滞料金の是非など様々な意見がだされ、事前投票でも文面による意見が見受けられたことから、今後の参考とするため、賛否の数字を記録しておくことにした。その結果は、賛成371、反対26、保留9である。理事会では本総会で出された意見を参考にして今後もより良い方策等を検討していくことになった。

報告事項等

1. PASJ 会員向けの電子版アクセス制限について

天文学会員と購読機関に対するPASJ電子版のアクセス制限について理事会で決定し、評議員会に報告された実施事項について、大橋PASJ理事より、説明があった。

これに対して、学部学生や学会員ではない他分野の人の閲覧のため国内の購読機関にもアクセス権を設けるべき等の要望が出され、理事会ならびにPASJ編集部では、会費未納の会員を少なくしてアクセス権の制限を撤廃できるよう努力するなど、今後もより良い方策等を検討していくことになった。

2. 年会実行委員会新委員の補充と交替報告

茂山年会理事（年会実行委員会委員長）より、年会実行委員会の新たな委員として鈴木知治氏、また戸谷友則氏の海外出張に伴い、河野孝太郎氏に交替した旨のことが報告された。なお、この新委員は、すでに理事会で議決を経た上、理事長により任命されている。

3. 宇宙3機関の統合に関する要望書

文部科学大臣より、宇宙3機関（宇宙開発事業団、航空宇宙技術研究所、宇宙科学研究所）が統合される方向が公表されたが、この件に関して、井上一氏より状況説明があった。また、田原理事長より要望書をもとに、以下のような報告があった。

宇宙3機関の統合に関して、統合後もこれまで宇宙研が果たしてきた共同利用機関としての役割、大学院教育等は新機関においても適切に保持され、日本のスペースサイエンスの発展につながるようなものにしないといけないことを強く訴えて行く必要性を理事会および評議員会で確認したこと、またそ

の旨を記した要望書を提出することに理事会および評議員会で決定した。なお、要望書の宛先は文部科学大臣宛とすること、さらに要望書を送った旨を統合準備会議メンバー等にも通知することを評議員会で決定している。

4. 学会財政改革について

松原会計理事より、学会財政の動向について状況説明があった。学会の予算は長期的な赤字傾向にあり、運用上の努力や抜本的な改革が早急に必要であり、理事会として一般会計全般にわたって改革案を検討中である旨の報告があった。また、松原会計理事より会員数を増やすように会員諸氏も協力してほしいとの要望があった。

5. IAU アジア太平洋地域会議の日本での開催について

天文学会と天文研連が共同主催するIAUアジア太平洋地域会議（2002年7月、日本にて開催）について、池内丁天文研連委員長より、説明および会員諸氏への参加呼びかけがあった。

6. 総会運営について

総会での可決方法、委任の方法、出席者数確認のための議場閉鎖など、総会運営に関わる件について、いくつか意見が出された。これらの意見を含め今後理事会でも検討していくとの田原理事長からの発言があった。

2001年10月22日

議長 田原博人

署名人 中井直正

署名人 杉山 直

会費に関する細則の変更について

2001年10月5日の秋季通常総会において、以下のように変更されました。

会費に関する細則 (平成6年4月変更)

(平成9年3月変更)

(平成10年7月変更)

(平成13年10月変更)

第1条 会費は、当該年度開始前に支払うこと。ただし、入会するものについては入会時に支払うものとする。

第2条 本会の会費は次の通り定める。

1. 正会員は年額18,000円（当該年度開始前に会費を納入する学生の場合、当該年度に学生として入会する場合、または、当該年度に準会員から正会員に移籍する学生の場合は、13,000円）
2. 準会員は年額8,000円

- 3. 団体会員は年額 10,000 円
- 4. 賛助会員は年額 1 口以上 (1 口 30,000 円)
- 5. 名誉会員は会費を納めることを要しない

第3条 前条第1項および第2項に相当する会員で、やむを得ず、当該年度の4月1日から9月末日までに納入する場合は1,000円、当該年度の10月1日以降納入する場合(除名された場合を含む)は2,000円を延滞金として会費に加えて支払うものとする。ただし、当該年度に学生として入会する場合、ならびに、当該年度に準会員から正会員に移籍する学生の場合、は延滞金を払う必要はない。

付則: 本細則は平成14年度の会費より適用する。

日本天文学会 2001 年秋季年会報告

2001 年秋季年会は 10 月 4 日(木)~ 10 月 6 日(土)の 3 日間、イーグレひめじおよび姫路市市民会館(姫路市本町)にて 8 会場(口頭会場 6, ポスター会場 2)を使って開催された。講演件数は口頭講演が 307 件、ポスター講演が 214 件あり、合計で 521 講演だった。これに加え、ポストアドライン講演が 4 件あった。年会参加者は 829 名(そのうちジュニアセッション、教育フォーラムのみの参加者は 79 名)だった。黒田武彦氏を中心とする兵庫県立西はりま天文台および姫路市の関連施設の方々の尽力で順調に行われた。企画セッションは「突発天体・突発現象」と「超巨大ブラックホールの形成」とが行われた。座長は次の 31 名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示す(下表参照のこと。敬称略)。

<記者会見>

秋季年会の前日、10月3日 13:30 からイーグレひめじ会議室で記者会見を行った。以下のトピックスについての解説が行われた。8社の報道機関の出席があった。

- (1) 巨大ブラックホール誕生の謎解明へ、新モデルを提案 —宇宙進化の解明へ大きな一歩—
記者会見発表者: 戎崎俊一
講演番号: B01a, B02a, B03a, B04a, B05a, B14b
- (2) 高速通信技術を用いた超高感度電波望遠鏡
記者会見発表者: 藤沢健太
講演番号: V54a, V62a, V64a, V65b, V58a, V59a 等
- (3) ハレー彗星が描かれた九谷焼の絵皿を発見!
記者会見発表者: 井上 毅
講演番号: Y02a

<ALMA 特別セッション>

「ALMA で探る宇宙 —銀河の形成と進化—」

日本天文学会、日本学術会議天文学研究連絡委員会、国立天文台電波専門委員会 ALMA 計画推進小委員会の共同主催により、10月4日 17:00 から 19:00 まで行われた。これは LMSA 特別セッションを含めて 4 回目になる。会場となった A 会場は 300 名近い参加者で満員となり立ち見もでる盛況であった。セッションは以下のように進められた。

- 1. あいさつ
(天文研連委員長, 名古屋大教授 池内 了)
- 2. ALMA 計画の現状と今後
(国立天文台教授 川辺良平)

10月4日(木)		10月5日(金)		10月6日(土)	
10:00-12:00	14:00-17:00	9:24-12:00	14:00-16:30	9:24-12:00	
A: 芝井 広 (名大)	出口修至 (国立天)	岡村定矩 (東大)	山田 亨 (国立天)	亀野誠二 (国立天)	
B: 山下卓也 (国立天)	中本泰史 (筑波大)	百瀬宗武 (茨城大)	富阪幸治 (国立天)	沢 武文 (愛教大)	
C: 長瀬文昭 (宇宙研)	福江 純 (大教大)	中島 紀 (国立天)	福島登志夫 (国立天)	松田卓也 (神戸大)	
D: 村田泰宏 (宇宙研)	中川貴雄 (宇宙研)	河合誠之 (東工大)	三原建弘 (理研)	山岡 均 (九州大)	
E: 田中 孝 (国立天)	岩室史英 (京大)	菅井 肇 (京大)	井口 聖 (国立天)	奥村幸子 (国立天)	
F: 牧野淳一郎 (東大)	鏑木 修 (東北大)	松元亮治/井田 茂 (千葉大)/(東工大)	増田 智 (名大)	柴崎清登 (国立天)	

3. ALMA で探る銀河の初期進化

(京都大助教授 太田耕司)

4. 銀河形成の諸問題と ALMA

(筑波大助教授 梅村雅之)

5. 総合討論— ALMA の共同利用について—

(司会: 国立天文台 教授 長谷川哲夫)

当初3の講演を行う予定であった米国カリフォルニア工科大学の Nick Scoville 氏が来日できなくなったのは残念であったが、代わりに太田氏が形成中の銀河や銀河進化の観測の現状と ALMA への期待を報告してください。総合討論では長谷川が ALMA のユーザーから見た共同利用のイメージを紹介したのち、討論に入った。参加者からは、ALMA で成果を出すためにはキープログラムなど事前に観測計画をよく練っておくことが重要だ等の意見が出された。世話人は池内了、中井直正、長谷川哲夫が務めた。

(長谷川哲夫)

<スーパー SINET 特別セッション>

学術情報ネットワーク (SINET) がこれまでの100倍速くなるので、天文分野で革新的な応用を考えようという集まりに、立ち見が出るほどのたくさんの方の参加が得られた。以後、メーリングリスト上で議論を続けようということとなった。

(近田義広)

<ジュニアセッション>

今回は秋の年会であるので通常ならばジュニアセッションは行わないのであるが、開催地からの強い要望もあったため、第3回のジュニアセッションを開催した。今回も天文教育普及研究会には共催となっていたほか、日本惑星協会、兵庫県教育委員会、姫路市教育委員会に後援していただいた。口頭発表のセッションは、10月6日(15:30~17:00)に行われ、また会期を通じてポスターでも研究が発表された。口頭発表が6件(これらはすべてポスターでも発表)、ポスターのみの発表が1件あり、合計7件の発表があった。口頭発表のセッションでは、参加者が150名ほどあり、質疑応答が活発になされた。また、日本通信機株式会社、日本大学総合学術情報センター、ライブ!レオニス実行委員会のご協力により、口頭セッションはインターネットで中継された。発表はどれも熱心に研究されたものであった。なお、口頭セッションの座長および進行は、有本淳一氏、大山真満氏、矢治健太郎氏にお願いした。今回も、セッション参加者にはコメント用紙を配布して各研究発表についてコメントを書いてもらったり、ジュニアセッションについてのアンケートに回答してもらったりした。今回のジュニアセッションでは、上記の諸機関の方々に加えて、会場

のイーグレひめじの方々や開催地のスタッフの方々にも多大なご協力をいただいた。ここに協力していただいたすべての方々に感謝の意を表したい。

(吉川 真)

<天文教育フォーラム>

「現代新天体発見事情」というテーマで、天文教育普及研究会と共催で10月6日(14:00~15:30)に行われた。参加者は約120名であった。日本天文学会では、彗星・新星・超新星等を新発見した天文愛好家に対して、天体発見賞・天体発見功労賞の授与をしている。それらの発見に携わってきた人たちの生活や発見に至る様子を直接聞きたいということで企画された。まず、天体発見賞選考委員会委員長の山岡均氏(九州大学)から、過去から現在に至る新天体発見の傾向と天文学会としての発見賞の考え方と実状についての報告があった。続いて、中野圭一氏、櫻井幸夫氏、高見澤今朝雄氏の3氏から、研究機関に勤務する研究者もびっくりするシステムティックかつドラマティックな発見生活の実態と、それを支える個人生活の様子について、時にはユーモアを交えつつ興味深い講演があった。尚、今回のフォーラムは姫路市教育委員会と兵庫県教育委員会に後援していただいた。

(加藤万里子)

<公開講演会>

今回の講演会は「宇宙生命を求めて」というタイトルで10月7日(日)13:00よりイーグレ姫路3階ホールで開催された。はじめに松田卓也副理事長(神戸大学)の挨拶があり、次に森本雅樹氏(兵庫県立西はりま天文台公園長)の講演「人類はいつまで人間してられるか」があった。身近な問題から世界の問題まで、人類が直面している最近のいろいろな話題について、宇宙文明という視点から話をされた。きれいな液晶プロジェクターの画面とユーモアあふれた一流の話術で楽しい講演であった。

休憩後には、「宇宙と生き物たち」と題する対談で、平林 久氏(宇宙科学研究所教授)と黒谷明美氏(宇宙科学研究所助教授)が電波天文学者と宇宙生物学者という立場から、生き物についてのいろいろな面を紹介した。地球にいる生命は多様で、さまざまな種類の生き物がいるのはよく知られているが、高温や強アルカリなどの極限状態で生きている古細菌もあり、それらは生命の発生を考える上で貴重な情報になること、地球の生命が親から子に遺伝子情報を伝える巧妙なしくみは、炭素という宇宙や地球上にわずかしかないうる元素を利用していることなどを、専門の異なる二人が対話形式で軽妙にやりとりした。

OHPの美しく楽しいイラストはお二人の作で、「学者」という生物が多様な能力をもっていることを聴衆に確信させた。入場者は約120名で講演とその後の熱心な質疑応答を楽しんだ。

(加藤万里子)

出身の池内了氏による挨拶があった。姫路市長、姫路市議会議員、(株)エイ・イー・エス、三菱電機よりご芳志やお土産を頂いた。この場を借りて感謝の意を表したい。

(黒田武彦)

<通常総会>

「通常総会議事録」(634頁)を参照。

<懇親会>

懇親会は10月5日(金)18:30~20:30に、イーグレひめじ屋上において開催された。参加者は約370名と学会始まって以来の大盛況となった。理事長、姫路市長、兵庫県知事代理の挨拶のあと寄贈された姫路を代表する地酒3銘柄の鏡開き、森本雅樹氏による乾杯、懇談の後、次回、次々回開催地を代表して茨城大学の吉田龍生氏、宮崎大学の山内誠氏による挨拶、姫路

<保育室>

保育室は会場の建物にあるプレイルームを使用した。あらかじめ保育室として設計されているので、洗濯機と子供用の小さなトイレ、授乳室があり、玩具や作りつけの台所セットなど、子供が遊ぶのに適した設計となっていた。3家族、子供のべ8人の利用があった。保育者の派遣は(株)NRSキッズメイトサービスに依頼した。準備にあたっては西はりま天文台の黒田台長にお世話いただいたことを感謝する。

(加藤万里子)

年会実行委員長 茂山俊和

◆(社)日本天文学会へ、2001年7月7日から2001年10月5日までの間に入会された方、退会された方をお知らせします。

*正会員新入会者(6名)

水田 晃 大阪大・レーザー核融合研究センター(在学)
 鈴木和司 名古屋大・理・装置開発室
 洪 秀徹 日大・大学院理工・物理(在学)
 三浦 均 筑波大・大学院数理物質科学(在学)
 川野元 聡 国立天文台(研究員)
 新村公剛 新村会計事務所

*退会正会員(3名)

福田浩之
 小杉俊一
 高倉達雄

*準会員新入会者(2名)

小林武男 県立海洋高校
 山田英樹 神戸大・大学院総合人間科学(在学)

*退会準会員(2名)

吉田豊彦
 山田寛晶

*退会賛助会員(1社)

日本洋書販売配給(株)

*移籍会員[準→正](1名)

児玉忠恭 東大・天文

編集委員 上野宗孝(編集長)、伊藤孝士、上田暁俊、大石奈緒子、太田耕司、
 小野智子、斎藤芳隆、土橋一仁、内藤統也、藤田 裕
 平成13年11月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 印刷発行 印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
 定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 Tel: 0422-31-1359(事務室) / 0422-31-5488(月報・欧文編集) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
 日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: jimu@geppou.asj.or.jp DTP: 峯尾由紀子